

彩の歳時記

平成二十四年 二月

其のほひ 桃より白し 水仙花 芭蕉【1644～1694】

水仙の 香やこぼれても 雪の上 加賀千代女【1703～1775】

姿と芳香が「仙人」の ようなところから「水仙」と中国で命名され、室町時代以前渡来した日本水仙の原産地は地中海です。学名の「ナルシサス」はギリシャ神話の美少年の名で、泉に映った自分の 姿に恋し、見つめ続けるうちに一本の花になったと言う逸話が「ナルシスト」の由来。海外では「希望」の象徴として、多くのガン患者サポート団体で「春の訪れと共に咲く水仙」を募金活動のシンボルとしています。千葉鋸南町(きよなんまちは、越前・淡路と共に日本三大水仙群生地)で「水仙ロード」は二月下旬まで賑います。



二月の異称

如月(きさらぎ) 寒さに着物を重ねて着ることから、更に着る(着更着)が語源。

二月の暦

三日 節分

季節を分ける日。四回ある節分の内、春が特に喜びが大きい時なので残ったと言われる。元は、中国渡来の「追儺(ついで)」。豆撒きは「魔滅(まめ)」に通じる「豆」を息災を祈りながら、鬼の目(魔目)まめに投げる。高尾山・川崎大師・千葉の玉前神社の節分会(この豆まき式が有名。



四日 立春

立春(りっしゅん) 春立つ日。

※東風凍を解く【七十二候】東風(こち)が寒さを和らげる頃。

東風(こち)吹かば白ひをこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ

菅原道真【845～903】



今日、学問の神様と言われる道真は、容姿端麗・文武に長けた人物ゆえ、帝に重用されたが為、政敵により無実の罪で大宰府に流されたと言われる。梅と桜を愛した道真を追って、梅は大宰府へ飛び「飛梅」として残り、桜は悲しみながら枯れた。松は、後を追ったが、神戸市須磨で力尽きたので、その辺り「飛松岡」と呼んでいる。

十一日 建国記念の日

戦前までは「紀元節」。国民の祝日 昭和四十二年(1967)から適用。

他の祝日が祝日法に日付を定めているのに、この日のみが「政令で定める日」と定義。

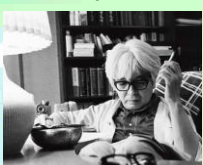
十二日 菜の花忌

作家・司馬遼太郎【1932～1996】の忌日。野の花である「菜の花」を愛し、

「菜の花」を愛し、

その花が咲く頃に亡くなった事と小説『菜の花の沖』に因む。大阪市出身。産経新聞記者時代『梟の城』で直木賞。新しい歴史小説の担い手として活躍。代表作に『竜馬がゆく』

『国盗り物語』『坂の上の雲』など。十八日に「第十六回菜の花シンポジウム」が東日本大震災を見つめた「3・11後の『この国のかたち』というテーマで日比谷公会堂で開催される。



十四日 バレンタインデー

もとは、聖バレンティヌス(バレンタイン)由来のキリスト教の記念日。日本では宗教に関係なくチョコを通して、女性から男性への一方

通行的愛情表明の日として広まったが近年は欧米に倣い「愛の誓い日」に。

十九日 雨水

空から降るものが雪から雨に変わり、寒さも和らぐ頃。

二十三日 皇太子誕生日

1960(昭和35年)生まれで52歳になられる。

高齢の天皇陛下に代わり、国事代行に当たられる事が多い。

二月の歌

銀色の道 昭和41年(1966) ザ・ピーナッツ ターク・タックス

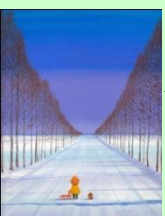


作詞の塚田茂【1926～2008】は、「夜のヒットスタジオ」「ジャポソ玉ホリデー」

「8時だヨ全員集合」などの構成作家、曲の宮川 泰【1931～2006】は住友金属 鴻之舞

鉱山の土木技術者が父だったため、幼少期をここで過ごし、広野を走る鴻紋軌道の光景を「銀色の道」とイメージして作曲したと言われる。

2003年に鉱山閉山30周年を記念して紋別市旧「紋別駅跡地」に歌碑が建立された。碑の除幕式には宮川自身が訪れ、鴻之舞と紋別の両式典会場で「銀色の道」を合唱する市民合唱団を指揮した。



遠い遠い はるかな道は 冬の嵐が 吹いているが 谷間の春は 花が咲いてる ひとりひとり 今日もひとり 銀色の はるかな道 ひとりひとり はるかな道は づらいだろうが 頑張ろう 苦しい坂も 止まればさがら 続く続く明日も続く 銀色の はるかな道 続く続く はるかな道を 暗い夜空を 迷わずに 二人の星よ 照らしておくれ 近い近い 夜明けは近い 銀色の はるかな道